

(様式 1-3)

福島県 (葛尾村) 帰還環境整備事業計画 帰還環境整備事業等個票

令和 2 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	194	事業名	被災地域農業復興総合支援事業 (肥育素牛生産施設整備) 葛尾村	事業番号	(5)-43-42
交付団体	福島県	事業実施主体 (直接/間接)	葛尾村 (間接)		
総交付対象事業費	27,182 (千円)	全体事業費	1,370,080 (千円)		
帰還環境整備に関する目標					
<p><現状></p> <p>葛尾村では、平成 28 年 6 月に一部帰還困難区域を除き避難指示が解除された後、営農再開に向けた様々な取り組みを実施し、農業者の帰還を促しているが、村民の帰還はなかなか進まず、解除後 4 年を経ても帰還率は 20% 台にとどまっている。震災前の村の主産業は農業であり、水稻、畜産、葉たばこを中心に多様な農業が営まれてきたが、原発事故を受け、風評被害や除染に伴う地力の低下、後継者の流出など営農環境が大きく変わり、離農を考える農家が少なくない。</p> <p>原発事故前、葛尾村では肉用繁殖牛 314 頭 (成牛 287 頭、育成牛 27 頭)、肉用肥育牛 3,313 頭 (黒毛和種 660 頭、交雑種 2,653 頭) が飼養されていたが、避難指示解除後、帰村して畜産経営を再開する農業者は少なく、令和 2 年 7 月時点の飼養頭数は、肉用繁殖牛 143 頭 (成牛 111 頭、育成牛 32 頭)、肉用肥育牛 120 頭 (黒毛和種 120 頭) にとどまり、繁殖牛、肥育牛いずれの飼養頭数も、避難前の水準には遠く及ばない。</p> <p><農業復興の方向性></p> <p>本村の農業再生の拠点として、肥育素牛生産施設を整備し、素牛市場相場に左右されずに安定的に肥育素牛を確保できる繁殖肥育一貫経営への転換を支援することにより、和牛生産基盤の復興を図り、村内で新たな雇用を創出するとともに、飼料生産の拡大や地力の回復等により避難農業者等の営農意欲を高め、農業者の帰還および村外からの新規参入を促す。</p> <p>また、堆肥舎を整備することで良質な堆肥を製造し、主として地域内の農家に供給することにより、除染で失われた地力を回復し、農産物の収量向上を図るなど、当該和牛生産事業を中心として地域の耕畜連携を進め、村内遊休地解消を目指す。</p>					
事業概要					
<p><本事業で施設を整備する理由></p> <p>肥育素牛生産施設の整備により、震災前の葛尾村で盛んであった和牛生産業の復興、雇用創出を図り、村民の帰還や営農再開を促進する。</p> <p><整備内容></p> <p>(1) 上野川牧場①</p> <ul style="list-style-type: none">・整備概要：繁殖牛舎、分娩牛舎、育成牛舎、飼料資材庫、堆肥舎、管理棟 各 1 棟 (敷地面積 9,151.68 m²、施設面積 3,471.98 m²)牛舎内作業用機械 (発情発見システム、分娩監視カメラ、ホイールローダー、フォークリフト、高圧洗浄機)堆肥運搬車 1 台・畜種：和牛・規模：繁殖牛 180 頭、育成牛 101 頭、哺育牛 43 頭 <p>(2) 上野川牧場②</p> <ul style="list-style-type: none">・整備概要：繁殖牛舎、分娩牛舎、育成牛舎、飼料資材庫、堆肥舎、管理棟、機械格納庫 各 1 棟					

(敷地面積 10,568.08 m²、施設面積 3,566.48 m²)

牛舎内作業用機械

(発情発見システム、分娩監視カメラ、カッティングミキサー、牛舎内作業用トラクター、高圧洗浄機)

飼料生産用機械

(草地作業用トラクター、リバーシブルボトムプラウ、バーチカルハロー、ロータリー、フロントローダー、ブロードキャスター、ジェットシーダ、グラスシーダ、飼料収穫機、ラッピングマシン、ロールベアラ、ブームスプレーヤ、ディスクモア、ジャイロヘーメーカ)

- ・畜種：和牛
- ・規模：繁殖牛 180 頭、育成牛 101 頭、哺育牛 43 頭
- ・飼料生産：品目及び受益面積 デントコーン/大麦 2ha、牧草 6ha

(3) 下葛尾牧場

- ・整備概要：繁殖牛舎、分娩牛舎、育成牛舎、飼料資材庫、堆肥舎、管理棟、機械格納庫 各 1 棟

(敷地面積 8,508.97 m²、施設面積 3,601.58 m²)

牛舎内作業用機械

(発情発見システム、分娩監視カメラ、ホイールローダー、フォークリフト、高圧洗浄機)

飼料生産用機械

(草地作業用トラクター、リバーシブルボトムプラウ、バーチカルハロー、ロータリー、フロントローダー、ブロードキャスター、ジェットシーダ、グラスシーダ、飼料収穫機、ラッピングマシン、ロールベアラ、ブームスプレーヤ、ディスクモア、ジャイロヘーメーカ、マニアスプレッダ)

- ・畜種：和牛
- ・規模：繁殖牛 180 頭、育成牛 101 頭、哺育牛 43 頭
- ・飼料生産：品目及び受益面積 デントコーン/大麦 2ha、牧草 6ha

<市町村計画等>

●葛尾村農業再生事業化計画「美しい農がある風景を再び かつらお」より

1 基本方針

安心農業基盤・体制の強化プロジェクト

① 営農意向を活かした農業拠点地区の整備と経営体制の強化

○畜産の再建

3 農業再生への目標

○農業生産額

平成 22 年の総生産額は 2,081 百万円で、その内、農業は 278 百万円でした。今後は、高品質と付加価値型農業を展開し、当面の農業生産額は、平成 22 年水準の 278 百万円を目標とします。

4 農業再生への道のり

(3) 第 3 段階「農業の将来像」

○肉用牛(黒毛和牛)の子牛の生産は、10ha 程度の飼料生産基盤を確保し、繁殖牛 30 頭程度を 1 団地とした畜産団地の創造を推進します。

5 実践に向けて

(2) 畜産(肉用牛【繁殖】)及び酪農

○草地の有効活用と資源の循環利用を図り、1 団地 30 頭程度の繁殖牛団地と大規模酪農経営体を創造します。

(8) 営農参加の促進

○村内の新規就農者等に対する栽培技術や経営向上を支援します。

●葛尾村農業再生アクションプランより

「畜産振興」

【目標】

○震災前の農家数の確保は困難なことから、意欲ある農家の規模拡大や一貫経営への発展を進め、頭数拡大を目指す。

【具体的対応（施策）】

②規模拡大・一貫経営への発展を目指す意欲ある担い手への加速化交付金を活用した施設等の無償貸与

当面の事業概要

<令和2年度>

設計委託 22,813 千円

地質調査 4,369 千円

<令和3年度>

建設工事 1,146,352 千円

監理委託 9,245 千円

さく井工事 18,810 千円

機械等導入 168,491 千円

合計 1,370,080 千円

地域の帰還環境整備との関係

当村の基幹産業は農業であり、地域が再生・復興するためには、農業の再生・復興が必要不可欠である。しかしながら、葛尾村農業再生事業化計画「アクションプラン」記載のとおり、避難指示解除から4年が経過し、「震災前の農家数の確保は困難」であることが明らかとなり、「意欲ある農家の規模拡大や一貫経営への発展を進め、頭数拡大を目指す」ことが求められている。そこで、村内で和牛の肥育経営を志向する農業者3法人を貸与予定者とする肥育素牛生産施設を整備し、繁殖肥育一貫経営への転換を促すことにより、村内飼養頭数の拡大を図る。

施設貸与予定者3法人が、貸与施設に投入できる労働力は、別紙「飼養規模決定根拠」記載のとおり、3～4人となる。「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」では「法人経営、主たる従事者3人、常勤雇用3人による繁殖雌牛200頭の飼養形態」が「肉用牛（繁殖）経営指標」として示されているが、平成28年度全国優良畜産経営管理技術発表会において最優秀賞を受賞した法人が、3.2人の労働力により繁殖牛186頭を飼養し、平均分娩間隔12.1か月の成績を収めているという好事例も見られることから、村の目標である「村内飼養頭数拡大」への貢献の最大化を期待し、繁殖牛180頭（子牛を含め飼養頭数300頭超）規模の施設を3か所整備し、3法人にそれぞれ貸与する。

当事業により整備される肥育素牛生産施設では、9名の雇用が創出される見込みであり、農業者が和牛肥育に取り組む環境が整備されれば、今後村の農業を担っていく意欲ある農業者の帰還および流入が促進される。また、土地利用型作物である飼料作物の生産規模が拡大されることにより、耕作放棄地が減少し、村全体の農業振興並びに地域再生が図られる。

関連する事業の概要

○効果促進事業	第31回申請	測量設計	55,939千円
	第33回申請	敷地造成工事	318,133千円

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

施設建設予定地

